

ブライダルチェック検査項目



ブライダルチェックの検査内容は、各医療機関によって特徴があります。

経膈超音波検査	子宮や卵巣の状態、病気の有無を確認する検査です。内診台で膈にプローブと呼ばれる親指ほどの検査用機器を挿入して行います。機器を挿入する際に、多少の違和感がある場合がありますが、痛みを伴う検査ではありません。
子宮頸がん検査	子宮頸がんは30～40代に多いがんですが、最近では20代の方にも急増しています。この好発年齢は妊娠・出産をする年代とも重なるため、注意が必要です。この検査は、検査専用の綿棒のようなもので子宮頸部を優しくこすり、細胞を採取して行います。 ※名古屋市に住民登録がある方で20歳以上の方は2年に1回自己負担金500円で検査できます。
HIV(ヒト免疫不全ウイルス)	HIVはエイズの原因となるウイルスです。陽性の場合、母子感染を起こさぬよう、さまざまな対策が必要です。
梅毒	妊娠中に梅毒に感染すると、胎盤を通して胎児にうつる先天梅毒を起こすことがあります。先天梅毒は、死産や早産、新生児死亡、奇形などを引き起こすので、注意が必要です。
クラミジア・淋菌感染症	クラミジアも淋菌も膈内分泌物を採取して調べる検査です。 クラミジアを治療しないまま感染が長期化してしまうと、不妊症や子宮外妊娠の原因となります。さらに、赤ちゃんが産道で母子感染を起こすと、肺炎や咽頭炎、結膜炎を発症するリスクがあるので要注意です。 淋菌感染症(淋病)も未治療で進行すると、不正出血や下腹部痛の原因となり、不妊症にもつながる恐れもあります。また、母体が妊娠中に淋菌に感染していると、流産や早産のリスクがあるだけでなく、母子感染で赤ちゃんにうつると、目や血液、関節などの炎症を起こすことがあり、生命の危険にさらされるリスクも否定できません。
麻しん・風しん	麻しん(はしか)と風しんに対する免疫の有無を調べます。 妊娠中に麻しんにかかると、胎児奇形の可能性は低いとされているものの、流産や早産を起こすリスクが高まります。さらに、妊婦の方は重症化しやすく肺炎や脳炎などを起こす可能性も否定できません。 風しんは妊娠初期に感染すると、胎児にもうつる可能性があり、心臓奇形・発達障害・聴力障害などの先天異常を起こすケースがあります。麻しん・風しんどちらか一方、または両方の免疫(抗体)がないと判明したときは、 妊娠していない状態でワクチンを接種 します。麻しんワクチンや風しんワクチン、麻しん風しん混合ワクチン(MRワクチン)は生ワクチンという種類のワクチンなので、 接種後2ヵ月間の避妊 が必要です。 ※名古屋市風しん抗体検査 無料対象 (1)から(3)すべてを満たす方 (1) 名古屋市に住民登録がある方 (2) 次のアからウの いずれか に該当する方 ア 妊娠を希望する女性 イ 妊娠を希望する女性のパートナー又は同居人 ウ 妊娠中の女性のパートナー又は同居人 (3) 以下のエからカの すべて をみとめる方 エ 平成26年4月以降に風しん抗体検査(妊婦健診等含む)を受けていない オ 過去に風しん(麻しん・風しん混合ワクチンを含む)予防接種を2回以上受けていない カ 過去に風しんにかかったことがない
C型B型肝炎ウイルス	B型肝炎(HBV) 妊娠中にB型肝炎に感染していると、赤ちゃんに感染させてしまう可能性があります。その場合でも、産まれてきた赤ちゃんにワクチンを接種することで感染を予防できます。 C型肝炎(HCV) 母子感染で赤ちゃんに感染させてしまうと、ほぼ無症状で経過しますが、将来、肝炎、肝硬変、肝がんになることがあります。 ※無料検査対象者は、「過去に一度もC型・B型肝炎ウイルス検査を受けたことのない名古屋市在住の方」です。